

# 浜名湖のアサリ漁業の再生に向けた 資源増殖研究

(予算区分 新成長戦略研究 研究期間 2021～2023 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 浜名湖分場 鷲山裕史・上原陽平・飯沼紀雄・  
霜村胤日人・隈部千鶴  
深層水科 鈴木進二・倉石 祐

## 【研究の背景とねらい】

- ・浜名湖のアサリ漁獲量は、2021 年に過去最低の 100 トンとなり、2009 年(6,008 トン)の 1.7%と大きく減少したことから、地元漁協などから資源回復に対する強い要望が出されています。
- ・本研究では、資源変動要因の解明と漁業者自ら実施可能な資源回復のための対策を漁業者に提案することを目的としました。

## 【研究成果】

- ・近年(2021～2022 年)は過去(2001～2002 年) と比べ、アサリの餌料量の指標であるクロロフィル a 濃度が春から秋にかけて減少していること、産卵期である秋の水温が上昇していることから、餌料減少と高水温の影響により成熟不良が生じ、産卵数が減少していることが資源減少の一因であると考えられました。
- ・アサリ漁場において、夏から秋にかけてクロダイによるアサリの捕食数が増加するのに伴いアサリの生息密度が減少し、産卵期の 9～10 月にはアサリが消失したことがわかりました(図 1)。また、クロダイによる食害量はアサリの年間漁獲量以上であると推定されたことから、クロダイによる食害がアサリ減少要因の一つと考えられました。
- ・アサリは水温 23℃、餌料量(クロロフィル a 濃度)11～13  $\mu\text{g/L}$  の条件下で 4 週間飼育すると成熟することがわかり(図 2)、浜名湖北部が成熟に適した環境であることがわかりました。
- ・クロダイの食害を防除する被覆網を漁業者とともに湖内 9 箇所を設置し、移殖稚貝の生残率を検討したところ、6 か月後の生残率が 6 箇所で 67～100%と良好であり、被覆網が産卵親貝の保護に有効であることがわかりました。

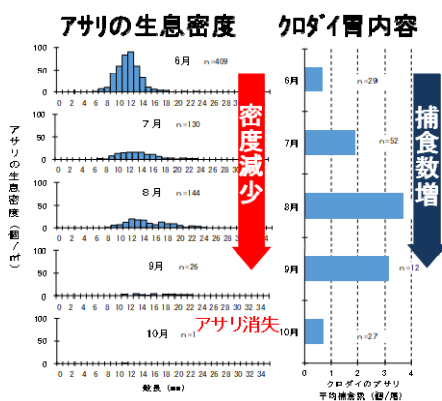


図 1 アサリの生息密度(左)とクロダイの胃内容のアサリ捕食数(右)の変化

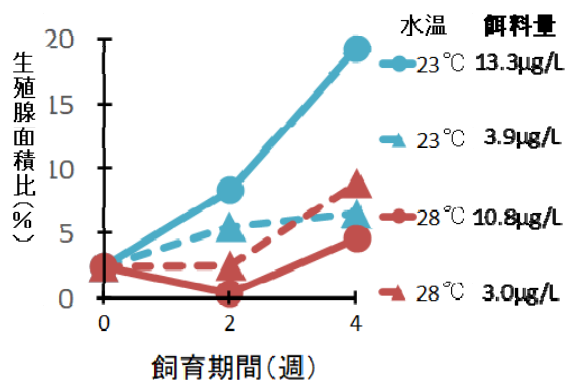


図 2 飼育実験による水温・餌料量と成熟状況

## 【研究成果の普及方法】

- ・稚貝を被覆網等で食害から守り、成長した親貝を餌料が多い湖北部に移動させ、肥育・産卵させることで資源回復を図るとともに、産卵数が減少した親貝の一部の出荷に取り組む漁業者を支援します。

(作成 2024 年 3 月)